

## 福島第一原子力発電所事故に関連する報告書の調査と 主要解決策の特定

福島第一原子力発電所事故における放射性物質の放出による公衆と緊急作業者の放射線被ばくについては、線量推定・リスク評価の課題や、放射線防護の課題に関するいくつかの報告書が、国内外の専門家機関によって公表されてきた。これらにより得られた教訓や経験を、今後の放射線防護システムの改善や防護活動の推進に適用するためには、主な解決策を明らかにすることが必要である。そのため、専門家機関により出版された線量およびリスク評価の報告書を分析することによって、主な要件やそれに対応する解決策を特定するための代替案などの可能性といったようなその特性の観点から、不確定要素について分類化をして評価をした。また、その解決策と放射線防護の課題との関係について明確にした。その結果、線量評価の不確実性を低減するために緊急被ばく状況において個人モニタリングを実施することや、リスク評価と放射線防護基準の適切な判断の基礎となる低線量放射線リスクの定量化評価というものが重要な解決策であり、線量およびリスク評価と放射線防護の課題双方にとって共通の注目すべき課題であることが明らかになった。